

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	森里海連環学と地球的課題(The earth system and linkage of forest, human and coastal ecosystem)			授業コード	A031251			
担当教員名	池畠 義人、杉浦 嘉雄、坂井 美穂			科目ナンバリングコード	A20402			
配当学年	1	開講期	後期					
必修・選択区分	選択	単位数	2					
履修上の注意または履修条件	講義に毎回出席してレポートを提出することが求められます。							
受講心得	この講義では、多くの外部講師の先生が忙しい時間を割いて、このこうぎのためにいらしていただきます。この先生方に失礼のないように、講義中の私語、居眠り、ゲームは厳禁です。							
教科書								
参考文献及び指定図書								
関連科目	大分学・大分楽							

授業の目的	わが国には、里山・里海という、人間と自然が共生する生活がありました。しかし、高度成長期の時代には、里山や里海のことは忘れ去られ、自然の荒廃が進みました。その後、自然環境の修復・再生に関する技術開発に多くの人材と費用が費やされました。しかし、その手法は山と川と海のつながりを無視したものでした。 人が住んでいる土地の海の環境は、その源である川と山(森と里)の環境を修復しないと再生しないのです。そうした反省を踏まえて、山と川と海のつながりを重視する、森里海連環学という新しい学問が生まれました。 この講義では、全地球的な視点から環境問題をとらえ、そのなかで森と里と海がどのようにつながっているかを理解し、各受講生それぞれが専門科目を受講する中で環境問題を考えるための材料を提供します。
授業の概要	初回の講義から8回目の講義では、森里海とその周辺の課題を理解するための基礎的な知識を学習します。10回目以降の7回の講義では、森里海に関する専門知識を有する学内外の講師を招き、それぞれの立場から森と地域、海のつながりについての講義をお願いしています。1~8回目の講義は、学外の講師の講義を理解するために必要な知識を習得するために実施しています。9回目の講義では、10回目以降の講義の内容が理解できる水準に達しているかどうかを見極めるために試験を実施します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第 1 週 : 森里海連環学とは?</b> この講義の進め方を解説するとともに、森里海連環学についても説明します。	次回の講義の準備に関する課題
<b>第 2 週 : 水質の基礎知識</b> 私たちが使っている水は、どこからやってくるのだろうか?この疑問を解決するために、水を浄化して飲めるようにするための上水道の仕組み、使った水をきれいにして環境を汚さないようにする下水道の仕組みを解説します。その過程で、きれいな水の基準と指標について理解します。	今回の講義の内容を定着させるための課題 次回の講義の準備に関する課題
<b>第 3 週 : 川と海と大気の基礎知識</b> 地球を取り巻く大気と海洋、および身近な水環境である河川について、その成り立ちと性質について解説します。	今回の講義の内容を定着させるための課題 次回の講義の準備に関する課題
<b>第 4 週 : 生態系の基礎知識</b>	

私たちは、多種多様な生き物に囲まれて暮らしています。そして、私たち自身も、この生き物のなかの一つの種です。このような、私たちを取り巻く生き物の様子を学びます。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 5 週 : 森の基礎知識

森の役割について学び、植物と自然の関係から日本の林業について解説します。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 6 週 : 里山の基礎知識

欧米と日本の自然に対する考え方の違い、自然とうまく付き合ってきた日本人の歴史について解説します。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 7 週 : 里海の基礎知識

欧米と日本の自然に対する考え方の違い、自然とうまく付き合ってきた日本人の歴史について解説します。

今回の講義の内容を定着させるための課題

### 第 8 週 : 中間試験

今後の講義の内容が理解できる水準に達しているのかを多肢選択式および記述式の試験で確認します。

次回の講義の準備に関する課題

### 第 9 週 : これからの自然エネルギーの作り方、使い方

東日本大震災以降、我が国のエネルギー政策は大きく転換しました。この回の講義では、本学で開発されたトンボ型風車開発の経緯から、今後の日本のエネルギーの考え方を解説します。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 10 週 : 森林をどうやって活かすか

#### ～国東地区における世界農業遺産に関する取り組みを通じて～

大分県国東地区は豊かな森林資源と、その森林と密接に関わる文化が維持されていることが評価され、世界農業遺産に指定されました。この講義では、国東地区的森林資源を背景とした様々な文化を紹介します。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 11 週 : 里山を護るためにには

以前の講義で、里山を護る重要性については学習しました。そして、その維持と持続可能性のためには、そこで暮らす人々の生活が豊かになる必要があります。ここでは、里山を護りながら生活をしていく試みについて解説します。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 12 週 : 里海を護るためにには

大分県の海は、瀬戸内海の栄養分を豊富に含んだ海水が太平洋に流れ出す海域に面しているため、漁業資源に恵まれた環境にある。この海を護るための活動を紹介し、大分の海の素晴らしさを知り、その未来について考えます。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 13 週 : 地域と地球の環境が直面している問題

これまでの講義の内容を総括し、地域の問題と地球全体の環境がどのように関連しているのかを解説します。

今回の講義の内容を定着させるための課題  
次回の講義の準備に関する課題

### 第 14 週 : 森里海連環と地球環境の課題

森里海連環学の最前線で活動されている方にお越しいただき、これまで活動とこれからの展開について解説をしていただきます。

今回の講義の内容を定着させるための課題

### 第 15 週 : 講義の総括と最終レポート課題の出題

森里海連環学の提唱者から、これまで活動とこれからの展開について解説します。

### 第 16 週 :

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー III : 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自然と人間生活の関わりについて理解するために、意欲的に学習に取り組める。
【知識・理解】	里海・里山の成り立ちを理解し、環境を理解するための基礎的なことを理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	森里海と地球環境に対して独自の提案ができる。
【思考・判断・創造】	自分たちの生活が、自然環境に対してどのようなインパクトを与えていているのか判断ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	8点	22点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	10点	20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え方」を含む。	10点	20点		
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安

	<p>○毎回の講義の課題による評価 講義の最後に、毎回、レポート課題(合計3点×14回)を出します。各レポート課題の評価基準は、以下のとおりです。 〔3点〕 レポート課題の題意に対し充分な考察がなされ、要求された分量を満たしている。 〔2点〕 レポート課題の題意を理解しているが、要求された分量に届いていない。 〔1点〕 要求された分量に全く届いていない。</p> <p>○最終回の講義に出題されるレポートの評価 15回目の講義で全ての講義を総括した上で、レポート課題を出題します。このレポートの評価基準は以下のとおりです。 〔30点〕 レポート課題の題意を理解し、十分な考察がなされている。 〔25点〕 レポート課題の題意を理解し、考察がなされている。 〔20点〕 レポート課題の題意を理解している。 〔15点〕 レポート課題で要求された分量を満たしている。</p>
発表・その他 (無形成果)	